

## 概要

- 本県では、平成22年に「富山県適正農業規範に基づく農業推進条例（GAP推進条例）」を制定し、GAPの取組みを推進しているが、**県内の畜産農家においてGAP認証の取得事例がない状況**であった。
- 平成30年に高等学校学習指導要領が改訂されたことを受け、富山県立中央農業高等学校（中央農業高校）が**GAPに取り組む意向を示した**。
- 令和元年度からGAP構築を開始したが、新型コロナウイルス感染症や教員と生徒の入れ替わり、学校行事等によって、取組みが遅延していた。そのため、**令和5年度内の「JGAP畜産」の認証取得を目指し支援体制を強化**、GAP構築支援を加速化。
- 令和5年11月、中央農業高校が北陸地域で初となる「JGAP畜産」の認証を取得**。将来の担い手候補の育成に繋がったほか、中央農業高校は自らGAPを地域へ波及させている。

## 具体的な成果

### 1. GAP構築の実現

- R5年11月28日 北陸地域初の「JGAP畜産」の認証取得**  
→R6年11月29日 維持審査に合格し認証を継続している
- 和牛甲子園における客観的評価**  
→出品牛は、**JGAP認証農場で生産されたことが高く評価**  
**（4,019円/kg、県内平均の1.6倍）**

### 2. 生徒の主体性向上

- 生徒らが中央農業高校版農業生産工程管理（CGAP）を作成**  
→わかりやすく上級生から下級生へと伝えられる「伝道書」に
- 積極的な運用と改善が実践され生徒が主体の「より良い農業のやり方」が実現**
- 中央農業高校の生徒がGAP伝道師として活躍**

### 3. 将来の担い手候補の育成

- 新規就農者のうち中央農業高校の卒業生の割合が増加**  
**（H28年14%→R5年43%）**



## 普及指導員の活動

平成30年  
～令和元年

- GAPの取組みを開始し、「GAP取得チャレンジシステム」を活用して、**GAP構築の枠組みを完成させた**。

令和2年  
～令和4年

- GAP構築の枠組を基に構築支援を進めるが、新型コロナウイルス感染症の影響や学校行事等で作業が遅っていた。改めて、**令和5年度の「JGAP畜産」認証を目指し支援を強化した**。

令和5年

- 支援体制を再構築し、各関係機関の役割を明確化して支援を行った。

令和6年～

- 「JGAP畜産」の取得後、県内畜産農家が集まる場の提供や、構築支援に係る助言等、**伴走支援を行い、他農場への普及に向けて活動を継続中**。

## 普及指導員だからできたこと

- 学校や教員・生徒と、農家を含む関係機関との連携体制を強化し、GAPの構築支援を行った結果、生徒が主体となってJGAP畜産を取得できた。
- JGAP畜産取得後、より一層生徒が主体となってアンバサダー活動を行っており、伴奏支援が他農場の「JGAP畜産」の取得や将来の担い手候補の育成につながっていく。

## 次世代につなげる持続可能な畜産 ～ GAP 伝道師は高校生 ～

活動期間：令和元年～継続中

### 1. 取組の背景

本県では、平成22年に全国初の「富山県適正農業規範に基づく農業推進条例（GAP推進条例）」を制定し、GAPの取組みを推進しているものの、県内の畜産経営体においてGAP認証の取得事例はなかった。

富山県立中央農業高等学校（中央農業高校）は、県内で唯一の畜産を学べる「動物科学コース」がある学校で、生徒が当番制で肉用牛の飼養管理作業に取り組んでいる。平成30年の高等学校学習指導要領改訂により、GAPの考え方を取り入れた学習内容が充実したことから、中央農業高校では、GAPに取り組む意向を示した。

そこで、令和元年度から広域普及指導センター（広域）と東部家畜保健衛生所（家保）が先導してGAPの取組みを開始し、「GAP取得チャレンジシステム」を活用して、中央農業高校におけるGAP構築の枠組みを完成させた。

令和2年度からは、その枠組みを基に運用を進めることとしたが、①新型コロナウイルス感染症によって活動が制限されたこと、②教員と生徒の入れ替わりがあること、③授業や学校行事による時間的な制約がある等の学校の特徴によって、取組みが毎年仕切り直しとなり、計画的な運用が進まない状況が続いた。そのため、令和5年度内の「JGAP畜産」の認証取得を目的とし、GAP構築を通じて中央農業高校における持続可能な農場管理の仕組みづくりを目指し、普及活動に取り組んだ。

### 2. 活動内容（詳細）

#### （1）支援体制の強化

令和5年度から、より高度な活動を進めるため支援体制を再構築し、「外部支援チーム」で支援を行った。広域は調整役を担い、①家保、②県農業技術課（行政）、③JA全農とやま（全農）、④生産者団体である肉用牛協会（プロ農家）と連携し、各機関の役割を明確化した（表1）。

表1 JGAP認証取得に向けた活動経過と支援体制

年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5～
ステージ	準備期		運用期		実行期
主な出来事	GAP取得チャレンジシステムの認定		JGAP認証の取得/波及活動/維持審査		
対象の反応	GAP枠組み完成		新支援体制		研修 生徒が主役に 主体的なGAPへ
	☹️ 難しい	😊	😊	🤔	😊 効果を実感
関係機関	広域 (調整、技術指導)	認証取得支援(構築)	運用支援	認証取得支援(構築や運用)	運用支援
	家保(技術指導)	GAPの理解醸成			
	行政(事業活用)	スキルアップ支援(広域:草地管理や労務管理等、家保:家畜衛生や繁殖管理等)			
	全農(広報活動)	事業の活用に関する支援			
	プロ農家(技術指導)	広報活動(取組みの取材やHPへの掲載)			
		◆繁殖素牛2頭贈呈			
		スキルアップ支援(繁殖管理や飼養管理、就業体験)			

## (2) 実施内容のリスト化とスケジュールの提示

認証審査の時期から逆算し、授業や学校行事を加味した月ごとの予定を策定、教員と生徒それぞれの実施内容をリスト化した(表2)。

表2 JGAP構築の計画書

令和5年度 富山県立中央農業高校 GAP計画				
目標：令和5年度中のJGAP認証取得に向けた整理と本校GAP取得における有識者増員				
月	内容	教育・訓練 【管理点4】	作成・見直し帳票等	
			教員	生徒
4	農場管理の見える化【管理点1】	講義 GAPとは 7-767z7777	農場基本情報(適用範囲)【管理点1.1】	7-767z7777表【管理点L1.4】
	経営者の責任【管理点2】		地図の整理【管理点1.2】 組織図【管理点2.1】 職務権限表【管理点2.2】 衛生管理方針の共有【管理点2.3】 自然災害等に備えるチェックリスト【管理点2.7】 業務管理情報の整理【管理点3.2】 労働条件の提示【管理点3.3】 外部組織の管理・点検【管理点5.1、5.2】 7-767z7777表【管理点L1.4、6】	
	人権の尊重と労務管理【管理点3】			
	外部組織の管理【管理点5】 家畜の飼養管理【管理点L1】			
	入場者への注意喚起【管理点4】 生産工程におけるリスク管理【管理点7】		農場への入場手順の確認【管理点4.3】 商品の仕様書【管理点7.1】	農場への入場手順の確認【管理点4.3】
8	廃棄物の管理及び資源の有効利用【管理点12】 注射針の残留防止対策【管理点L3.7】 水の管理【管理点L4.1】	-	廃棄物の処分方法【管理点12.1】 注射針の残留防止対策【管理点L3.7】 家畜の飲用水【管理点L4.1】	
9	生産工程におけるリスク管理【管理点7】	講義 リスク評価	食品衛生・家畜衛生のリスク評価【管理点7.3】 リスク評価に基づく対策ルール作成【管理点7.4】	食品衛生・家畜衛生のリスク評価【管理点7.3】 リスク評価に基づく対策ルール作成【管理点7.4】
10	労働安全管理および事故発生時の対応【管理点9】		事故の防止【管理点9.2】	事故の防止【管理点9.2】
11	初回審査申請			
12	初回審査文書審査対応・現地確認		初回審査文書審査対応・現地確認	初回審査文書審査対応・現地確認
1	自己点検の実施【管理点2.4】 生産工程におけるリスク管理【管理点7】		自己点検表【管理点2.4】 リスク評価の見直し【管理点7.5】	自己点検表【管理点2.4】 リスク評価の見直し【管理点7.5】
	経営者による改善【管理点2.5】		経営者による改善【管理点2.5】	本年度目標の提示

## (3) JGAP農場用管理点と適合基準に基づく構築支援

担当教員と話し合いながら試行錯誤を重ね、教育機関の特徴を考慮し、県内事例の管理技術を紹介する等、運用しやすいGAP構築を提案した。構築支援は、月1回を基本として必要に応じて回数を増やし、効果の実感が得られるまで粘り強く活動した。担当教員の異動や時間的制約によって十分な理解と準備が進まない状況を打開するため、担当教員へ「JGAP指導員資格」の取得を提案した。担当教員の資格取得は、教員と生徒の意識の変化に繋がりを、GAPへの理解醸成と生徒が主役となって、GAP構築をしていく転機となった。

## (4) 外部支援チームによるスキルアップ支援

外部支援チームがGAPの手法を取り入れた実践的な授業を実施し、さらなるスキルアップを支援した(写真1、2)。また、取組みを進めるなかで明らかとなった繁殖管理の改善を図るため、全農から贈呈された繁殖素牛2頭を活用しながら、プロ農家から直接アドバイスを受け、プロのノウハウを中央農業高校のGAPへ反映させた(写真3)。



写真1 座学による構築指導



写真2 繁殖管理実習



写真3 プロ農家による直接指導

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### (1) G A P構築の実現

令和5年11月に北陸地域で初となる「J G A P畜産」の認証を取得、令和6年10月の維持審査を経て認証の継続を実現した。また、令和6年1月に開催された「第7回和牛甲子園」では、出品牛の枝肉単価が4,019円/kg（県平均比：1.6倍）とJ G A P認証農場で生産されたことが高く評価され、客観的な評価を実感した生徒はさらなる意欲の向上につながった。

#### (2) 生徒の主体性向上

生徒が積極的にG A Pの運用と改善を実践した結果、G A Pをわかりやすく改良した「中央農業高校版G A P（C G A P）」が生徒達によって作成され、生徒主体の「より良い農業のやり方」が実現した。この「C G A P」は、上級生から下級生へとG A Pを教える「伝道書」として活用されている。

#### (3) 地域への波及活動

①認証取得後、生徒は「G A P伝道師」として、実感した取組み効果を地域へ広げる活動を展開している（写真4、5、6）。広域では、県内畜産農家が集まる場の提供や、構築支援に係る助言等、生徒の活動をサポートした。これらの活動を通じて、生徒たちの活躍を目にした県内公共牧場では新たにG A Pの取組みを開始するなど、地域全体の意欲向上に大きな波及効果をもたらしている。



写真4 畜産農家へのアンバサダー活動



写真5 小学校への出前授業



写真6 消費者に対するGAPの認知度調査

#### (4) 将来の担い手候補の育成

G A Pの取組みを通して、生徒は自ら考えて行動する人材となったこと、農家との交流により畜産への興味と関心が高まったこと、上級生の活躍に感化されたことによって、1年次からの畜産専攻の選択や、畜産系大学への進学、就農を希望する生徒が増加する等、将来の担い手候補の育成につながっている。

#### 4. 農家等からの評価・コメント

生徒が主体的に責任感を持って牛舎管理に携わるようになり、認証スキームの取得が謳われる昨今、一足先に社会人として必要な記録付け等の素養を培うことができていると感じる。また、「GAPをする」ということが、学年の垣根を越えたコミュニケーションツールとなっており、将来的には本当の意味で生徒達自身が（教員の介入がない状態で）P D C Aサイクルを回せるようにしたい。

（富山県立中央農業高校・生物生産科動物科学コース畜産専攻教諭・川口純平）

#### 5. 普及指導員のコメント

GAP 認証取得には7年もの時間を費やしたが、関係機関との連携体制を強化した結果、生徒の意欲が向上し、生徒主導による GAP 構築を実現することができた。

この成果は、生徒の畜産への関心の高まりだけでなく、他農場への GAP 導入支援活動など、地域全体への好影響にもつながるなど、農業高校における普及活動は、未来の農業を支える人材育成に大きく貢献すると実感している。

（広域普及指導センター・副主幹普及指導員・高平寧子、副係長・齋藤健朗）

#### 6. 現状・今後の展開等

J G A P 認証の取得がゴールではなく、中央農業高校においてG A Pが継承されていくことが重要であるため、関係機関と連携しながら伴走支援を継続していく。

現在、県内の公共牧場でG A Pの構築支援を開始しており、中央農業高校の生徒達が「G A P伝道師」として活躍している。この取組みをモデルケースとしてG A Pの考え方を県内畜産農家へ波及し、次世代につなげる持続可能な畜産経営を支援していきたい。